ストック効果「最大化」戦略（仮題）（とりまとめ骨子案概要）

資料1

基本的な考え方

これからの社会資本整備はストック効果「最大化」戦略に転換。

①「効果が出る」から「効果を出す」へと発想を転換

②「賢く投資・賢く使う」の徹底　⇒　ストック効果の「見える化」さらに「見せる化」へ　⇒　「フィードバック」　というサイクルの確立

具体的施策

事業の効果的実施

「賢く投資・賢く使う」の徹底

（1）「賢く投資」（投資面の工夫）

・民間投資の誘発
- 企業の事業活動に合わせた事業実施スケジュールの調整　等

・複数事業の一体的実施
- 複数施設の配置計画の工夫　等

・ハード・ソフトの総動員
- 道路整備に伴う事業地周辺における規制緩和　等

・小さな投資で大きな効果
- 既存ストックの機能を高める追加投資　等

・新技術の活用
- ICTを活用した先進的モニタリングシステムの利用　等

（2）「賢く使う」（施設運用面の工夫）

・施設の利用効率の向上
- 需要状況に応じた継続的な運用の見直し
- 施設の運用によって得られるデータの活用　等

・施設の高度化、多機能化の推進
- PPP/PFIの手法による施設の高付加価値化
- 未利用資源の活用　等

・ビッグデータの活用
- ビッグデータによる施設利用の状況の可視化・分析　等

（3）「賢く投資・賢く使う」の条件整備

・事業計画、完成見通し等の情報開示
- 計画のビジュアル化などわかりやすく、かつタイムリーな情報発信　等

・地域における協力・連携体制構築
- 市場・利用者のニーズの的確な把握
- 官民一体となった計画的、継続的な取組　等

・行政手続きの円滑化の推進
- 審査手続きの迅速化やワンストップ化　等

ストック効果の「見える化・見せる化」

（1）幅広い効果の把握

・事後評価の充実
- 事後評価において可能な限り客観的、定量的に把握
- 効果を高めた「工夫」の実績やレッスン（教訓）も可能な限り把握

・ビッグデータ、アンケート等の幅広い情報の活用
- 行政機関や民間事業者が保有する情報のほかビッグデータの積極的な活用
- アンケートの活用に当たっては、ウェブでの実施等による効率化にも留意
- データの所在、活用方法等の整理

（2）誰にでもわかりやすい伝え方へ

・情報の分かりやすい形での提供
- 優良事例集の作成やアーカイブ化により、分かりやすく解説・紹介

・相手に応じた伝え方の工夫
- 地域住民向け、企業向け等、相手に応じたストック効果のPR方法の検討

（3）経済分析手法の活用に向けた検討

・帰着ベースの分析手法等による効果の見える化
- SCGE分析（※）のケーススタディ

※　空間応用一般均衡（Spatial Computable General Equilibrium）分析。受益者側の視点で便益を評価する一手法。

フィードバック

「見える化」で得た知見の活用

・把握した工夫・効果・レッスンの横展開
- 幅広いストック効果を積極的に把握、計画・推進への反映
- 蓄積・類型化された「工夫」の適用の検討やレッスンの参照

・「見える化・見せる化」のためのマニュアルの作成・共有
・優良事例集の作成・アーカイブ化、工夫のインデックス化